

## 特集「足跡化石の最前線—成果，研究の方法，そして課題—」

高橋啓一\*

2008年5月31日ならびに6月1日に滋賀県立琵琶湖博物館で化石研究会第26回総会・学術大会が開催された。この大会では、シンポジウム「足跡化石の最前線—成果，研究の方法，そして課題—」が企画されたほか、一般講演も行われた。この特集には、シンポジウムと一般講演で発表された足跡化石関連の講演の中から、特集のために会誌編集委員会が各講演者に執筆をお願いし、快諾を得た論文が掲載されており、編集作業は高橋と会誌編集委員会で行った。

今回、琵琶湖博物館で開催された化石研究会で、シンポジウムのテーマとして足跡化石が取り上げられた理由は、2008年が琵琶湖東部を流れる野洲川河床から足跡化石が発見されてから20年にあたったためである。野洲川河床の足跡化石は、京都大学が中心となった学術調査団が結成され、地元や全国から多くの研究者が参加して調査が行われた。この調査の経験は、その後、国内における足跡化石研究を大いに推進し、用語の統一や調査法の発展も促すことになった点で、近年の足跡化石調査の中で特筆すべきものであったといえる。

シンポジウムでは4題の哺乳類、恐竜などの足跡化石、カブトガニ歩行跡など足跡・歩行研究の最近の成

果と課題などが話された。このうち本特集では、松岡廣繁、犬塚則久、岡村喜明の各氏が中心となった論文が掲載されている。また、一般講演の中でも3題の足跡関連の講演が行われたが、このうちの安野敏勝、福嶋徹・岡村喜明など3氏による2つの講演内容が本特集に論文としてまとめられ掲載された。

足跡化石の研究は、未だ施行錯誤を繰り返しながら、進んでいる分野である。そのような中であって、本特集に掲載された論文に見られるように、各地における新しい足跡の発見、研究・調査法の開発、問題解決の課題や悩みは、テーマとしてあげた「足跡化石の最前線—成果，研究の方法，そして課題—」にふさわしいものとなった。

この特集が、身近にある足跡化石をこれから調査しようとする方や足跡化石の研究に進もうとする方に役立つものになることを期待している。また、本特集を読んだ読者が新たに足跡化石に興味を持ち、研究や調査を始めるきっかけになるようなことがあれば、望外の喜びである。末筆となったが、滋賀県立琵琶湖博物館で開催されたシンポジウムや本特集の編集にお世話になった化石研究会会員の皆様や琵琶湖博物館関係者の方々にお礼申し上げる。

\* 〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091 滋賀県立琵琶湖博物館  
Lake Biwa Museum, 1091 Oroshimo, Kusatsu, Shiga 525-0001, Japan  
E-mail: takahasi@lbm.go.jp